



問 圏央道IC周辺開発の進捗状況は 答 市街化区域編入が決定しました

藤沼 喜義 議員

問 市街化区域編入の進展状況は。

町長 平成25年10月28日付け県報で告示され、市街化区域の編入について都市計画決定されました。

問 業務代行業者の選定の決定時期は。

建設環境課長 平成26年9月を目途に、業務代行

予定者と土地区画整理組合で契約を締結し、決定する見込みです。業務代行予定者は清水建設㈱とエム・ケー㈱のグループです。

事業期間は平成26年度



IC周辺開発予定地域

南側
北側

から28年度までとし、平成26年10月頃から造成工事が始まる予定です。

問 開発区域への進出業者の意向は。

町長 現在、業務代行予定者のところには商業、工業、物流など数十社からの問い合わせがあると聞いています。

町としても地元企業、商工会等に意向調査を実施しています。

問 圏央道・新4号国道の工事にあわせた対応は。

町長 圏央道の一部開通（久喜白岡JCTから境IC）が平成26年度、これらにあわせて、新4号国道の4車線化が図られる予定となっています。

完成後には町内の交通量が著しく増加すると思われるので、町道5号線のアクセス道路の整備、新4号国道から町道8号線までを平成28年度までに行います。また、通学路にもなっています冬木橋（通称たいこ橋）も、架け替え等も含めて国交省に対応を申し入れています。

建設環境課長 町道5号線の整備計画は計画延長

約1km、計画幅員12mの予定です。

問 道の駅ごか周辺の優先的利用は可能か。

町長 現在、道の駅の駐車場が満杯の状態ですの

問 カントリーエレベーターの更新は 答 ライスセンター方式へ調整中

問 老朽化の進んでいるカントリーエレベーターの更新は。

町長 平成23年12月に町、議会、農業委員会の三者連名で茨城むつみ農協へ要望書を提出し、以降、平成26年度に国の交付金制度を活用したライスセンター方式の事業に着手すべく、所要の調整を行っているところ

です。町としても農業基盤の整備のため、可能な限り支援したいと考えています。

問 平成25年産米の結果について。

産業課長 茨城県西部の作況指数は102（やや良）で収量は10アルあ

で、業務代行予定者と協議して、有効利用できるよう検討して参ります。

問 地権者の土地譲渡の意向は。

建設環境課長 業務代行

たり537kgでした。

品質は1等米73%、2等米25・5%、3等米1・5%で、今年は胴割米が品質低下を招いた大きな要因となっており、着色米は減となっています。

今後とも、品質向上のため、病害虫防除協議会による防除薬剤の補助等を進めます。

問 道の駅直売所の推移はどうか。

町長 総売上げに対する町内産の売り上げ割合は、開設当初の39%から平成24年度には53・9%に伸び、生産者も167名の登録中118名（70・7%）が町内です。引き

続き新規生産者の確保対策、PR、援助等を検討します。

問 減反政策の変更に伴う対策は。

産業課長 5年後の廃止や交付金の見直し等が報道されましたが、国・県からまだ指針が示されていません。明確化した段階での対応を考えております。

問 6次産業化への取り組みは。

町長 五霞町そば組合で本年12月8日にそば焼酎の商品化に至りました。今後五霞町特産品の開発・育成を含めた6次産業化の推進に努めます。

町長 五霞町そば組合で本年12月8日にそば焼酎の商品化に至りました。今後五霞町特産品の開発・育成を含めた6次産業化の推進に努めます。